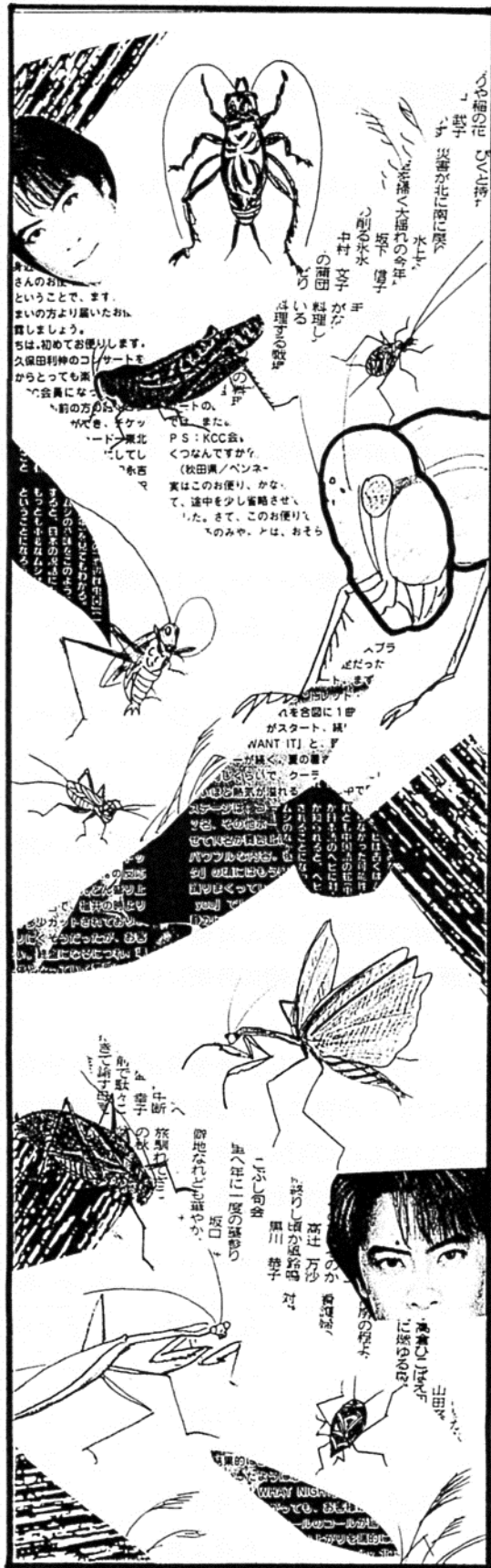


# 翔 1000 羽



## 百万石蝶談会

October 1993

# T.O.B.U

## 能登産コムラサキの飼育記録

松井 正人

最近、久しぶりに能登のコムラサキを飼育した。黒色型と褐色型が交ざり合う所で越冬幼虫を採集し、羽化した黒色型と褐色型を掛け合わせるのが目的だった。この掛け合わせから生まれる褐色型は黒色型遺伝子のキャリアである。このキャリアにはバラツキがあるとされている（松崎隆, 1993）ので、黒色型に近いものから褐色型まで、色々出現するとおもしろいと考えたのである。ところが、羽化した成虫の交尾が成立しなかったのか、産卵には至らずこの計画は失敗に終わった。

しかし、この地域のコムラサキの飼育報告は少なく、また失敗の原因を読者諸兄に伺うためにも、飼育記録を發表することにした。

## 《採集記録》

1992年12月29日、中島町北免田にて1群のヤナギから32頭の越冬幼虫を採集した。幼虫はその日のうちに婦人用ストッキングに入れ、庭の木に吊り下げた。

## 《幼虫飼育》

ヤナギが完全に芽吹いた頃、シダレヤナギを使って室内飼育を始めた。この時、幼虫は既にストッキングの中をかなり動き回っていた。当初は25×15×17cmの水槽に、水に差したシダレヤナギと共に32幼総てを入れ、ネットで蓋をした。幼虫が大きくなり餌のシダレヤナギが1日で食べ尽くされるようになると、36×19×25cmの水槽に総て移し変えた。

4月22日に全幼虫が脱皮完了。この時点で5幼がひからび、6幼が行方不明となり、幼虫は21頭になっていた。行方不明の原因は、盛んに動き回る幼虫が水槽とネットの隙間から逃亡したもので、これは何頭かの幼虫が水槽の外側にいたのでわかった。

## 《成虫羽化》

羽化は5月18日から始まり、6月1日までに黒色型9♂8♀、褐色型1♂2♀の計20頭が羽化した。残る1頭は前蛹期に他の幼虫によって吐糸され、脱皮できないまま蛹化したもので、成虫体はでき上がっていたものの羽化できずに死亡していた。これは、せまい容器でたくさんの幼虫を飼ったのが原因かと思われる。

## 《羽化記録》

日付	黒色型	褐色型	日付	黒色型	褐色型
5月18日	1♂		5月24日	1♂1♀	1♀
5月19日	1♂		5月26日	1♂	
5月20日	1♂		5月28日	1♀	
5月21日	1♂		5月29日	2♀	
5月22日	1♂	1♂	5月30日	1♀	1♀
5月23日	2♂1♀		6月1日	2♀	

## 《成虫飼育》

5月23日から（黒色型1♀×褐色型1♂）、5月24日から（黒色型1♂×褐色型1♀）、5月30日から（黒色型1♂×褐色型1♀）の組合せで飼育を始めた。容器は40×40×50cmの干し魚用の網（青色）と、φ42の捕虫網（白色）を膨らませたものを使用し、網の中には、バナナを腐らせた餌とヤナギの切枝を一緒に入れた。

5月23日のペアは、午前中だけ直射日光が当る軒下につるしたところ、3日目に10卵程産んで死んでしまった。この卵はフ化しなかった。5月24日と5月30日のペアは庭木の直射日光がほとんど当たらない枝下につるした。これらペアは1か月以上、羽が擦り切れても生きていたが、全く産卵しなかった。

## 《なぜ産卵しないのか》

産卵しない理由には、「気が向かないから産卵しない」と「未交尾だから産卵できない」の2通りが考えられる。コムラサキに産卵させるのは難しいとされているが、風通しの良い環境を作れば比較的簡単とも言われている。今回の方法は風通しの良い環境だったと思われるので、「気が向かないから」は当てはまらないと思われる。次の「未交尾だから」については、1日中見ている訳にもいかず、またアサギマダラのように腹部をつまんでシコリを確認するといった簡単な確認法（シコリがあれば既交尾）も知らないので断定はできないが、どちらかと言えばこちらの方が可能性が高いと思われる。

## 《終わりに》

今回の飼育は、交配でつまずいたと思われる。私のハンドペアリングではコムラサキは全く無理なので、今回は自然交配を試みたが、これまた失敗してしまったようだ。

そこで読者諸兄にお願いしたい。阿江茂（1971）以後のハンドペアリングに関する文献、またはコムラサキの自然交配を成立させる方法を知っている方は、連絡して頂きたい。さらに交尾済かどうかを確認する方法があれば、それも教えてもらいたい。それまでは、能登では超珍しい褐色型の雌でも捕らえて、強制産卵でもしていようかと考えている。

最後になりましたが、12月29日という年末の忙しい時期に時間を作って頂き、越冬幼虫採集に御同行頂いた野中 勝氏にお礼申し上げます。

## 《参考文献》

阿江茂, 1971. 蝶の交配と飼育, pp79. ニューサイエンス社

松崎隆, 1993. 愛知県東部のコムラサキ第1化♂の変異, 蝶研フィールド 8(1):11-14

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

## 「石川県のゲンゴロウ科調査報告」の訂正と追加

井村正行

石川県のゲンゴロウ科調査報告(井村正行・他, 1992)に、同定ミスによる種名の間違いがあったので訂正する。また、1個体しか報告しなかったサワダマメゲンゴロウが、種名の訂正となったので、サワダマメゲンゴロウの新たな記録を追加する。

- 1) クロマメゲンゴロウ(Agabus optatus Sharp)として報告したものに、ホソクロマメゲンゴロウが(Agabus miyamotoi Nakane)が含まれていたもので下記のように訂正する。

クロマメゲンゴロウ(Agabus optatus Sharp)

白峰村大杉谷	1991年7月21日	1♀	入場 登
--------	------------	----	------

ホソクロマメゲンゴロウ (Agabus miyamotoi Nakane)

金沢市住吉	1992年4月5日	18♂22♀	I, N, U, NM
辰口町蟹淵	1992年3月22日	4♂2♀	I, N
小松市大山	1992年5月10日	1♂	I
白峰村大杉谷	1991年7月21日	1♀	入場 登
"	1992年6月21日	6♂12♀	N, NM
"	1992年6月28日	5♂8♀	N

ホソクロマメについては、これまで四国のみ産する(上野俊一・他, 1985)とされていたが、本州にも広く分布することがわかってきた(森 正人・他, 1993)。かねてより野中 勝氏は、♂交尾器の形から本種をホソクロマメではないかとしていたが、筆者は「四国のみ産する」にこだわり、♂交尾器を検せず本種をクロマメとしていた。今回、筆者も♂交尾器を検し、ホソクロマメと確認したので、入場 登氏が白峰村大杉谷で採集した1♂を除く総てのクロマメの記録を、ホソクロマメに訂正する。

入場 登氏採集の1♂は、精査の結果クロマメの♀と判明した。種名を決定したのは筆者であり、入場 登氏に大変ご迷惑をかけたこととお詫びしたい。

- 2) サワダマメゲンゴロウ(Platambus sawadai Kamiya)として報告したものをクロマメゲンゴロウ(Agabus optatus Sharp)に訂正し、新しくサワダマメゲンゴロウの記録を追加する。

クロマメゲンゴロウ(Agabus optatus Sharp)

白峰村市ノ瀬	1991年7月21日	1♀	入場 登
--------	------------	----	------

サワダマメゲンゴロウ (Platambus sawadai Kamiya)

輪島市

1990年8月26日

1 ex

江口元章

サワダマメとして報告した1 exは、精査の結果クロマメの♀であることが判明したので訂正する。また、石川県産甲虫類初出文献一覧表(高羽正治, 1992) にサワダマメゲンゴロウの記録があるので、これを追加する。

この種についても種名を決定したのは筆者であり、入場 登氏には重ねてお詫びしたい。

- 3) コシマチビゲンゴロウ (Potamonectes hostilis Sharp) として報告したもの総てを、ヒメシマチビゲンゴロウ (Nebrioporus nipponicus Takizawa) に訂正する。

ヒメシマチビゲンゴロウ (Nebrioporus nipponicus Takizawa)

金沢市大桑	1992年7月8日	16exs	I
白峰村三谷	1991年7月21日	2 exs	入場 登
〃 白峰	1992年5月27日	1 ex	I
〃 百万貫岩	1992年5月31日	12exs	I, NS, NM
〃 市ノ瀬	1992年5月31日	1 ex	I

シマチビゲンゴロウ属は従来 Potamonectes が用いられていたが、森 正人・他(1993)によれば、現在 Nebrioporus に変更されている。また、森 正人・他(1993)によれば、コシマチビゲンゴロウ (Nebrioporus hostilis Sharp) は九州にしか産せず、本州、四国産はヒメシマチビゲンゴロウ (Nebrioporus nipponicus Takizawa) としているので、森 正人・他(1993)に従って検索、及び♂交尾器を被検したところ、ヒメシマチビであることを確認した。

ゲンゴロウ調査の中では多くの方のご好意に預かり、また入場 登氏や野中 勝氏には格別なお世話になった。にもかかわらず、筆者の未熟からご迷惑をかけたしまった事を大いに反省したい。本稿をお借りし、入場 登氏と野中 勝氏に深くお詫び申し上げると共に、改めてお礼申しあげる。

## 《参考文献》

- 井村正行・他, 1992. 石川県のゲンゴロウ科調査報告. 翔, (97):1-10.  
 上野俊一・他, 1985. 原色日本甲虫図鑑(II). pp. 541. 保育社.  
 森 正人・他, 1993. 図説日本のゲンゴロウ. pp. 217. 文一総合出版.  
 高羽正治, 1992. 石川県産甲虫類初出文献一覧表. pp. 89. 石川むしの会.

《いむら まさゆき 〒920-01 金沢市湊2-116-70》

## キノコ周辺で得られた石川県初記録の甲虫

松井正人

徳本・高羽(1993)によれば、「キノコにつく甲虫を調べれば、かなりの石川県未記録種が明らかになる」というので、甲虫3000種への道程を一步でも歩もうと、採集に出る都度、キノコ周辺の甲虫採集に心がけた。キノコといっても足や傘のあるものから、堅く枯木にへばり付いたカビ状のものまで、手当たり次第に採集対象とした。しかし、キノコ周辺の甲虫には小さい物が多く、同定困難が予想されたので、同定は総て高羽正治氏にお願いする事にした。標本作りのや同定の労を気にしなくても良いとなると、少しでも時間を作って採集する気になり、これが下記の発見に結び付いたと思われる。

この発表にあたり、ゴマのような小さな甲虫ばかりを数多く同定して頂いた、高羽正治氏に改めて感謝したい。

## 《オオキノコムシ科》

ツマグロチビオオキノコムシ Tritoma nigropunctata (Lewis)

1993年6月27日 吉野谷村途中谷 2頭 松井正人 採集

## 《デオキノコムシ科》

トビイロホソケシデオキノコムシ Scaphobaeocera japonica (Reitter)

1993年7月24日 津幡町三国山 1頭 松井正人 採集

ツブデオキノコムシ Pseudobironium lewisi Achard

1993年7月25日 金沢市医王山 7頭 松井正人 採集

## 《タマキノコムシ科》

マルムネタマキノコムシ Agathidium crassicorne Portevin

1993年8月16日 金沢市戸室山 1頭 松井正人 採集

## 《ヒメキノコムシ科》

マルヒメキノコムシ Aspidiphorus japonicus Reitter

1993年8月16日 金沢市戸室山 1頭 松井正人 採集

## 《ツツキノコムシ科》

イシハラエグリツツキノコムシ Ennearthron ishiharai Miyatake

1993年8月16日 金沢市戸室山 1頭 松井正人 採集

## 《ハネカクシ科》

ヘリトゲヨツメハネカクシ Pycnoglypta denticollis (Sharp)

1993年7月31日 白峰村砂御前山 1頭 松井正人 採集

## 《ゴミムシダマシ科》

- タケイキノゴミムシダマシ Platydema takeii Nakane  
 1993年7月24日 津幡町三国山 1頭 松井正人 採集
- マルツヤニジゴミムシダマシ Addia scatebrae Lewis  
 1993年7月25日 金沢市医王山 1頭 松井正人 採集
- マルツヤキノゴミムシダマシ Platydema kurama Nakane  
 1993年7月31日 白峰村砂御前山 1頭 松井正人 採集  
 1993年8月16日 金沢市戸室山 3頭 松井正人 採集

## 《ナガクチキムシ科》

- アヤモンヒメナガクチキ Holostrophus orientalis Lewis  
 1993年6月9日 鹿島町石動山 1頭 松井正人 採集

## 《ケシキスイ科》

- クロマルケシキスイ Cyllodes ater (Herbst)  
 1993年8月16日 金沢市戸室山 1頭 松井正人 採集
- アシナガマルケシキスイ Pallodes cyrtusoides Reitter  
 1993年8月16日 金沢市戸室山 1頭 松井正人 採集

## 《チビキカワムシ科》

- ニホンチビキカワムシ Lissodema japonum Reitter  
 1993年8月16日 金沢市戸室山 1頭 松井正人 採集

《参考文献》 徳本 洋・高羽正治, 1993. 甲虫三千種への道. 翔, (102): 2-6.

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

## アオカタビロオサムシの採集追加報告

井村正行・中西重雄

アオカタビロオサムシは本州中部での採集記録が少ないので、以前本県で野中 勝、中西重雄の両氏によって多数採集されたのは、一時的なものと思われるようである。しかし、本県では通常的にみられ、今回もトラップにより3頭を採集したので報告する。

金沢市戸室清水 井村正行・中西重雄 採集

1993年5月5日1♂, 同年5月8日1♀, 同年5月18日1♂

《いむら まさゆき 〒920-01 金沢市湊2-116-70》

《なかにし しげお 〒921 金沢市法島町9-49》

## 自 己 紹 介

江崎功二郎

自 宅：〒920-23 石川郡河内村内尾口76-2 TEL：07619-3-5773  
 職 業：公務員 1967年生まれ 血液型：AB

昭和42年生まれの現在26歳。カミキリとコメツキのコレクターです。カミキリの本格的な採集は、10年前の高校1年の時からやっています。当時は誰も知り合いがおらず、名著「新しい昆虫採集案内Ⅰ～Ⅲ」だけを頼りに採集をしていました。足が電車かバスという不自由もあってか、1年間に30種集めるのも大変だったことが思い出されます。コメツキの方は、6年前から集めているのですが、あまり真剣にやっておらず、全国各地から寄せられたタトウの山の整理さえも終わっていない状況です。従って、難しいといわれるコメツキの同定さえもロクにできない、自称コメツキ屋です。一応これが趣味となっています。

仕事の方は、趣味が実益を得るようになってしまったという最低最悪のパターンで、昭和初期の昆虫研究者の生き残りとも言われ、カミキリと捕食性コメツキの幼虫の生態を研究テーマにインチキくさい研究をしています。現在、手掛けているカミキリはスギノアカネトラカミキリ、コブヤハズカミキリ属、ヒゲナガモモトカミキリなどで、コメツキはウバタマコメツキ、ヒゲコメツキ、オオツヤハダコメツキなどです。仕事は、鶴来町にある樹木公園内の昆虫飼育舎というボロいところでやっています。サボって虫採りにいっている可能性もおおいにありますが、近くまで来られたら、ひやかに寄って下さい。

まだ与えられた行数を終えていないので自宅のことを書きます。上記のような内尾（セイモアスキー場、千丈温泉）に一軒屋を借りて住んでいます。標高は400mほどあり、近所にはカモシカがうろついています。まだ見たことはありませんが、クマもいるそうです。内尾橋の灯火には良く虫が飛んで来るのですが、午後6時から12時まで点灯するように自宅に取り付けたブルーライトは、それ以上に虫を集め、蒸し暑い夜には大運動会が行われています。今年訪れたおもしろい虫は、オオムラサキ、ハンノアオカミキリ、コバネカミキリです。もうすこし違う目で見たら、もっとおもしろい虫が発見できたと思います。自宅近くには採集の好ポイントがあり、今まで各地で狙っても採れなかったハウノキトゲバカミキリを2頭も採集してしまい、大変良い思いをしています。それと今年狙ってみたいのがハセガワトラカミキリで、なんとなく雰囲気の良いところも多かったので、居れば今年採集できると思います。

いかなる巡り合せかわかりませんが、この春より石川の人になってしまいました。微力ではありますが、石川または百万石蝶談会の昆虫学の発展に力添えできたら幸いと思っていますので、今後ともよろしく願います。

《えさき こうじろう 〒920-23 河内村内尾口76-2》



## 自 己 紹 介

生 田 省 悟

自 宅：〒921 金沢市平和町3-22-10 TEL：0762-43-1653  
 職 業：教 員 1948年生まれ 血液型：B型

オオヒシクイの渡来で知られる新潟県は福島潟の近くで育ちました。蝶の初心者には必ず「はしか」＝ゼフィルス狂いに罹かるそうですが、私の場合もまったくその通りです。子供の頃の憧れだったギフやゼフから未だに離れられません。それに昔仲良く遊んでもらったタイコウチやコオイムシも気に懸かります。早い話が、心・技術・知識のどれをとっても、いささかトシをくい過ぎた昆虫少年そのものといったところでしょう。

虫とは畑違いの英文学をかじったおかげで、12年前に金沢へやって来ることになりましたが、そんな私をまず歓迎してくれたのはモンキアゲハでした。たとえ普通種でも、めったにお目に掛かれないところでばかりくらしてきたものですから、こいつの豪快さ、そしてときには香林坊界限までも豪遊する贅沢さを見れば、むらむらとしてくるのは当たり前です（ちなみに、モンキは日本海側では今新潟市付近を徐々に北上中のはず）。しかも、住まいのすぐ近くで大好きなギフを始め、いろいろな蝶と遊べるらしいことも分かりかけていました。ところがそんな矢先、事情があって家族を郷里に帰し、私もJRに大枚をつぎ込む「単身赴任もどき」になってしまったのです。宝の山を目の前にしながら・・・

それでも今年になってようやく、暇を見つけては石川県内でネットを振り回せる身分になり、地図と乏しい情報、それにお粗末な勘を頼りにあちらこちらをうろついているところです。もちろん、この蝶談会のあることは雑誌等を通して知っておりましたが、たまたま7月始めに医王山で嵯峨井さんにお目にかかり、こちらの幼稚な質問に親切に答えていただいたばかりか、貴重な情報まで教えていただきました。そのお話は生物学をやっている同僚が以前「あそこの会はつわものぞろいの恐ろしいとこだぜ」と言った科白を裏打ちするのに十分なものでした。それに大いに好奇心をそそられ、怖いもの見たさ（失礼！）というのも入会資格にかなうはずだと勝手に決めつけ、仲間に入れてもらうことにした訳です。

生まれつきの性分でしょうか、規律とか団体とかいうものがどうにも苦手で、およそ「会」と名のつくもので楽しい思いが出来るのは、せいぜい「飲み会」くらいしかありません。で、私としては一大決心をしたこととなりますが、会員の皆様のご指導を得て、県内の蝶の分布や生態はもとより、これまであまり視野に入らなかった虫についても、能力の及ぶ範囲で知識を深めるよう務めたいと思っています。どうか宜しく願います。

《いくた しょうご 〒921 金沢市平和町3-22-10 (C)52-26》

## ゲンゴロウを買った少年

お祭りには夜店がつきもの。最近珍しくなったが、虫を売る店も並ぶことがある。この時もカブト、クワガタ、タイコウチ、ミズカマキリ、ゲンゴロウ等、少年達の好きそうな虫が並んでいた。この中から何のためらいもなくゲンゴロウを買った少年がいた。少年は得意満面に、父親こと富沢氏に見せびらかしていた。

## 脚光を浴びるキノコヨトウ

キノコムシが騒がれている今、ひそかにキノコヨトウの魅力が広がりつつある。地衣類を食べる仲間で、二十種程が知られ、その地味な美しさが受けている。

## 大杉谷で燈火採集大会

八月七日野中親子も名古屋から駆け付け、燈火採集大会が行われた。当初は釈迦林道で三幕の予定だったが、種々の理由から、大杉谷で二幕の大会となった。燈火採集の後

はヒゲナガウオツチングもあり、酒盛も行われた。参加は子供二人を含む十一人。

## 松田氏、八重山を持ち帰る

八重山から帰ったと聞き、松田邸を訪れると、オオゴマダラがフワフワ漂い、ベニモンアゲハ、リュウキュウムラサキ、アオタテハモドキ、ツマベニ等々が飛び交っていた。意識は一瞬にして遠い八重山へ飛んで行ってしまい、締め切った部屋の中で暑さも忘れ見入ってしまった。

## 終った筈のゲンゴロウだが

井村氏、ゲンゴロウは終わったと言いつつ、秘かにすくいに行っている。ゲンゴロウ凶鑑を買い込んだり、ゲニタリアを出してみたり、すっかり深みにはまった感がある。

## 順風満帆の甲虫グループ

石川むしの会甲虫グループの活動は好調で、定例会の参加者も増えている。「アカハネムシ」も会合に合わせて発

行され、二号にはカミキリムシをも含んだ県内初記録種が二十七種も報告されている。例会は毎月第二金曜八時から、泉野出町三丁目のカフェレスト「ノアノア」で開かれている。

## 田辺邸に漂う沖繩の香り

ブンソウゲとかブルーゲンピリアではない香りがそこはかとなく漂い、「イワカワが部屋の中を飛んでいる」とか、「コノハチヨウが飛びだしそう」とかも聞こえてくる。沖繩に通じるドアか抜け穴でもあるのだろうか。

## 飼育不調の原因はなんだ!

メスアカムラサキ百頭が初齢で全滅。アオタテハモドキ八十頭も羽化したのはたったの十頭。今年の飼育は超不調とぼやいている松井氏だが、原因は不明。未熟な技術、農薬食草、ウイルス、不順な天候等と、諸説はあるものの決定打が無く、今後の飼育に不安が残る松井氏であった。

## 初出文献追遺作成に着手

高羽氏、初出文献一覧表の追遺作成に取りかかっている。一覧表発表以後、初記録が目白押しで、既に百五十種程度が発表されているとか。今後の発表者に便宜を図り、更なる記録発表を促そうと、うれしい悲鳴を上げながら頑張っている。

## 例会の記録

八月六日(金)城南管工二階にて八時より開催。

まず、明日予定の釈迦林道ナイト大会への参加、「翔」の釈迦林道特集号の発行、甲虫三千種を目指した初記録の発表等について事務局から話があった。

その後は井村会長のクマゴマ、中西氏のホソハンミョウ、指田氏のオオイチモンジ等で話は盛り上がった。

参加は、小幡、竹谷、指田、澤田、中西、松井、井村、山岸、上田、野中(TEL参加)の十名。

# 会員の動き・しゃぼん虫の動き

山ゴマならぬ山グマに遭遇  
砂御前山は、手軽に行ける  
山ゴマのポイントとして有名  
である。ここには、表と裏の  
壁があり、山道をたどって行  
くと表の壁に行き着き、そこ  
に着くまでは、裏の壁がチラ  
チラ見え隠れしている。

最近、この裏壁に熊が出没  
し、あたかもゴマを守護する  
形になっている。つい先日、  
表で成果が上がらない松井氏  
が裏に回って遭遇し、ほうほうの体で逃げ帰っている。

熊なんか恐くない  
山ゴマを求めて砂御前を目  
指した井村氏だが、表のポイ  
ントには先客が陣取っていた。  
裏ポイントには熊の恐怖があ  
るものの、借金の形にはどう  
しても山ゴマが必要だった。

腰の鉈を頼りに必死の覚悟  
をした井村氏だったが、熊に  
は遭遇せず、熊に守られてい  
た山ゴマをゴツソリ採集して  
きた。

蛾、半翅目にも手を出す  
まずは蝶に手を出した上田  
氏だが、一年も経ずに卒業し、  
一時はカミキリに専念してい  
た。その後は、ゲンゴロウ、  
ゴミムシともつばら甲虫を攻  
めていたが、最近これだけで  
は飽き足らず、蛾やセミの仲  
間にも手を広げた。

甦る伝説の男「中西重雄」  
「金沢オサ掘り伝記」の中  
に、金沢の中心部でヤコンオ  
サムシの一大生息地を発見し  
た中西重雄氏が載っている。  
彼の活躍はすさまじく、石川  
県の崖は彼のオサ掘りによつ

て総て崩されてしまったとも  
記されている。その後何故か  
彼は虫世界を離れ、蘭世界へ  
と旅だったとも記されていた。  
この伝説の英雄「中西重雄」  
が再び虫世界に返ってきた。  
金沢の中心部近く、ホンハン  
ミヨウの一大生息地を発見し  
て。

年中行事の八重山もうで  
松田氏、例年の如く今年も  
八重山へ。何時もは蝶で一杯  
の八重山も、今年は様子が違  
うらしく、発生量は例年の半  
分以下とか。それでも蝶の多  
い場所、シャッターチャンス  
には事欠かなかつたらしい。

七・三ーアカハネムシ発刊  
石川むしの会甲虫グループ  
の機関紙「アカハネムシ」が  
産声を上げた。編集は橋場清  
氏と思われる、氏は「石川県の  
ハンミョウ科」と題して、県  
産十二種のこれまでの記録を  
まとめている。また入場登氏  
は県初記録の甲虫十種を報告  
している。

## 翔

NO. 104

1993年10月1日発行

百万石蝶談会

金沢市大場町東871-15 松井方

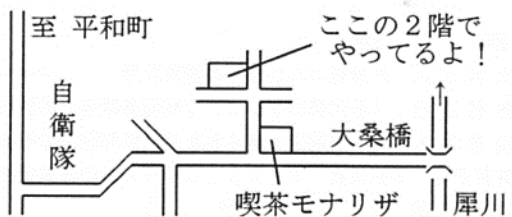
〒920-01 ☎0762-58-2727

郵便振替 金沢5-562

印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月の第1金曜日8時から

TEL参加もOKです(0762-44-3318)



## 目 次

松井正人：能登産コムラサキの飼育記録	1
井村正行：「石川県のゲンゴロウ科調査報告」の訂正と追加	3
松井正人：キノコ周辺で得られた石川県初記録の甲虫	5
井村正行・中西重雄：アオカタビロオサムシの採集追加報告	6
江崎功二郎：自己紹介	7
生田省悟：自己紹介	8
編集部：会員の動き・しゃばの動き	10